

2017 年度 第 3 四半期 連結業績
機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコール Q&A (要旨)

日時：2018 年 2 月 14 日 15：30－16：05

回答者：ソニーフィナンシャルホールディングス 常務取締役 清宮 裕晶

ソニー生命 執行役員 大里 祐二

ソニー損保 執行役員 長谷川 徹

ソニー銀行 執行役員常務 溝口 純生

※内容については、理解し易いよう部分的な加筆・修正および QA 順序の並べ替えをしております。

<質疑応答>

Q1：【SFH】

来期(FY18)の増配の条件について聞きたい。新契約価値でどれくらいの水準に到達すれば、増配を検討するのか？

A：来期 (FY18) については、現在事業計画を検討しているため、回答を差し控えたい。来期 (FY18) の業績および配当予想を公表する際に、説明したい。

Q2：【SFH】

今回、事業環境・業容成長・経済価値ベースの利益の伸展を勘案して増配を決定したとのことだが、今後どのような条件が満たされれば、増配が行われるのか？

A：経済価値ベースの利益成長を重視しているため、着実に新契約価値が積みあがること、増配のカタリストになる。それに加え、中長期的に収益が安定して増加することが確認できれば、増配を検討していきたいと考えている。

Q3：【生命】

FY17.3Q (3M) の新契約価値は 199 億円と大きく増加している。FY17.2Q において、ライフプランナーチャンネルの販売状況は好調である一方、代理店チャンネルは不振とのコメントがあったが、足元のチャンネル別の販売状況について教えて欲しい。

A：両チャンネルとも FY17.2Q (3M) と比べて販売状況は改善している。チャンネル別では、ライフプランナーチャンネルの方がより改善している。両チャンネルとも引き続き、業績を伸ばすよう取り組んでいく。

Q4：【生命】

2018 年 4 月の標準生命表改定に伴い、保険料改定の発表を行ったが、保険料値下げの影響を踏まえても、FY17 年間の新契約価値の見通し 600 億円は達成できるという判断なのか？

A : FY17.3Q (3M) の新契約価値は 199 億円であり、金利水準などの環境が変わらなければ、FY17.4Q (3M) は同程度の新契約価値を積み上げられると考えている。

Q5 : 【生命】

FY17.3Q (3M) の保険引受利益（基礎利益－順ざや）に改善がみられる理由は？

A : FY17.3Q (3M) は、主に市況がよかった影響により、変額保険の最低保証に係る責任準備金繰入額が減少して損益にプラスに効いている。また、例年、2Q (3M) の事業費は重い傾向にあり、前四半期比較としては、利益にプラスに働く。これらの要因により、FY17.3Q (3M) の保険引受利益は、FY17.2Q (3M) と比べて改善した。

Q6 : 【生命】

FY17.3Q (3M) の新契約年換算保険料が、前四半期、前年同期比でともに増加している。代理店チャンネルの販売状況はまだ厳しいとのことだが、ライフプランナーチャンネルは回復しており、短期コンテストを中止後、チャンネル別の販売状況にどのような変化があったのか、より具体的に教えて欲しい。

A : ライフプランナーチャンネルにおいて、前年度まで行っていた短期コンテストを中止した。前年度までは、短期コンテストの前後で営業活動量が増減していたが、今年度は、年間を通じて平準的な活動を行うよう取り組んできた。その取り組みが定着し、営業活動量も徐々に増えてきたことで、販売状況が改善してきている。

代理店チャンネルの販売状況は、他社との競争環境にも影響されるため、回復に時間がかかる。代理店とのコンタクトを増やし、ソニー生命の商品の良さなどを知っていただく営業活動を増やすことが必要であり、まだ満足できる水準にない。

なお、FY17.3Q (3M) の販売状況の改善に、昨年 10 月に発売した米ドル建保険の新商品効果も、一定程度寄与している。

Q7 : 【生命】

標準生命表改定に伴い今月から保険料改定を行っているが、その影響について教えて欲しい。

A : 2018 年 2 月と 4 月に一部商品で保険料の改定を行うことを、今年 1 月に発表した。1 月の販売も料率改定に伴う落ち込みはそれほど大きくなく、2 月以降は着実に新契約を獲得している。

Q8 : 【生命】

米国の長期金利が上がってきているが、業績にどのような影響があるか？

A : 米国の金利は、足元 10 年は上昇しているが、30 年などの超長期の金利はそれほど上昇しておらず、今のところ大きな影響はない。超長期の金利が上がらないと、業績への影響は出てこないと考える。

Q9：【生命】

米ドル建保険の負債と、それに見合う資産のデュレーションのミスマッチは、どの程度あるのか？

A：米ドル建保険商品に対する資産運用において、保険負債よりも資産を多めに購入しており、その差額部分に対して、為替ヘッジを行っており、為替変動による影響は出ていない。米ドル建保険の資産と負債に関するデュレーションについては、マッチしており、金利変動に伴う損益への影響はほぼ出ていない。

Q10：【生命】

標準生命表改定に伴う保険料改定において、第3分野商品の料率を据え置く理由は？

A：第3分野については、生命表改定などによる影響が小さく、保険料率がほぼ変わらないため、料率を据え置いた。定期保険などの影響がある商品について保険料改定を実施した。

Q11：【生命】

変額保険に係るヘッジのずれが FY17.1H (6M) で、△20 億円程度であったが、FY17.3Q (3M) は？

A：FY17.3Q (3M) は+15 億円であり、9 カ月累計ではほぼニュートラル。

Q12：【生命】

米ドル建保険において資産が負債を上回っている部分のヘッジに係わる損失が、FY17.1H (6M) で 18 億円の損失であったが、FY17.3Q (3M) は？

A：FY17.3Q (3M) で損失が 6 億円増えており、9 カ月累計では 24 億円の損失。

Q13：【生命】

金利や株式のボラティリティが大きく上昇した場合、EV にネガティブなインパクトがあると思うが、足元の状況を踏まえるとどれぐらいリスクとして見ればよいのか？

また、特に注視しておく指標あるか？

A：足元のボラティリティを踏まえても、EV に大きな変動をおよぼすような状況になっていない。

市況変動の中で、EV への影響が大きいのは、金利の変動になる。

特に、超長期の金利の影響を受けるが、直近、大きな動きをしていない。

以上